

明日も元気で来いよ！



卒業式まで1週間。いよいよ来週の月曜日が卒業式となりました。玄関掲示も、卒業式バージョンにかえました。今回は、青い鳥が飛び立っています。子どもたちの巣立ちを心からお祝いしたいと思います。

6年生は、奉仕活動で、特別教室のワックス掛けをしてくれました。茶話会、全校

お別れ会も済ませて、いよいよカウントダウンです。

明日、13日（火）は、6年生に対する校長先生の特別授業。内容は、秘密です。お楽しみに。

漢字検定 5年連続優秀団体賞

先日、日本漢字能力検定協会から、「優秀団体賞」受賞の連絡が届きました。これで、5年連続の受賞となります。この賞は、今年度、受検した団体22,092団体の中から、最優秀団体20に次ぐ、120団体に贈られる賞です。5年連続で受賞できることもたいへん名誉なことです。

これは、自分の目標とする級の合格めざして、一生懸命がんばった子どもたちに対する評価です。個人の結果は、まだ届いていませんが、合格、不合格の結果に関わらず、その努力を認め、讃えたいと思います。

子どもだけでなく、そのがんばりを支え、励ましてくださった保護者の皆様のおかげであります。ご協力ありがとうございました。

昨日 3月11日 東日本大震災から7年

昨日は、東日本大震災から7年の日でした。

次に紹介しているのは、仙台市教育委員会が作成した新防災教育副読本「3・11から未来へ」に掲載されている詩です。

帰つてくるだろう
必ずいいものが
まえとはちがう
ぼくたちには
がんばっている
ために
ものをとりもどす
そこにはつた
でも
ぜんぶない
思い
風景
そこにあるはずの
見わたせば
なにもない
ない

岩見夏希

この詩を書いた仙台市に住む岩見夏希さんは、震災当時小学5年生でした。岩見さんは、祖父母の住む山元町へ、小さいころから何度も訪れており、風景やそこに住む人々が大好きでした。しかし、震災から2週間後に山元町を訪れて、久しぶりに見た町は、何もかもが変わっていました。自然豊かな景色、人々の笑顔・・・昔から知っている、今まで当たり前にあったすべてのものがなくなっていました。この詩は、その時の思いを、支援物資の入っていた段ボールに書いたもので、町役場に掲示されました。この詩を読んだ多くの人々が励まされたそうです。

岩見さんの話が同じ副読本に紹介されています。

震災を経験し、自分がどれだけ恵まれた環境にいるかを知りました。わたしはその後、今日の前にいる人、目の前にあるものを、前よりも、もっと大切にすることにしています。また、地域の方や周りの人に対して感謝する気持ちを忘れないようにしています。そして、震災を経験した一人の人間として、その時に感じたこと、見たことをずっと忘れないでいたいと強く思っています。

昨日は、当たり前のよう毎日が、当たり前でなく、実は、「有り難い」ことだということを心に刻む日であってほしいと思っています。